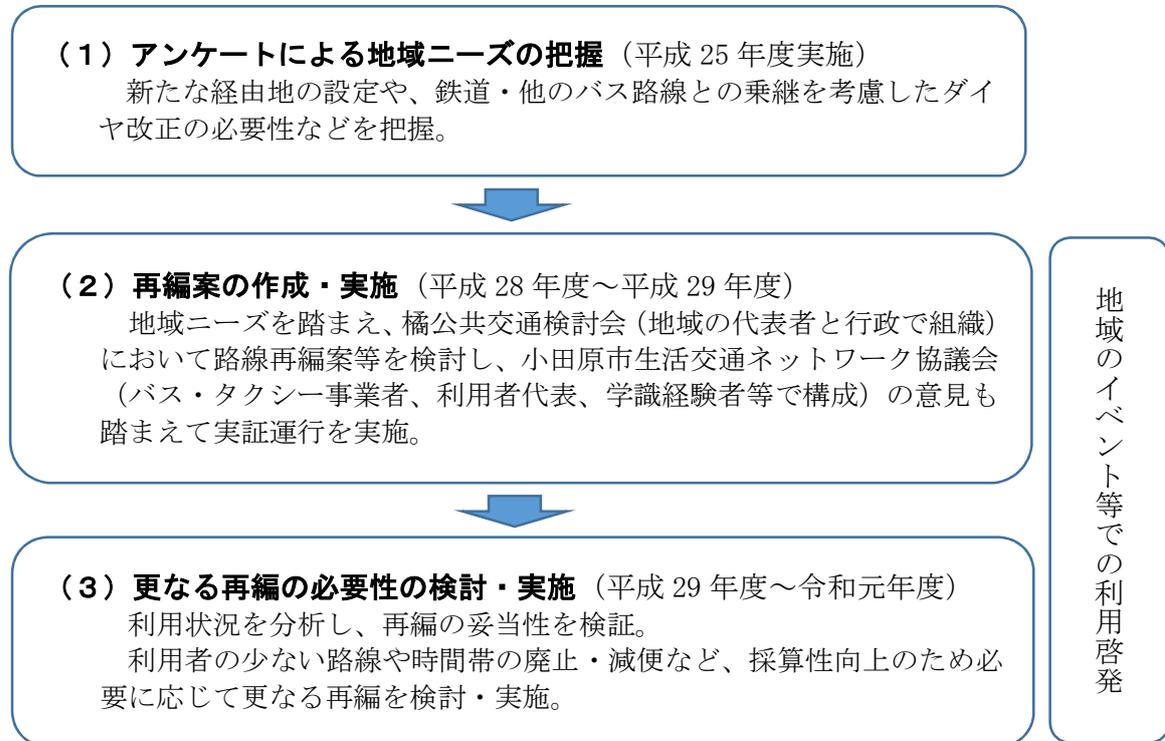


橘地域における路線バス実証運行（平成 28 年度～令和元年度）について

1 実証運行の目的

利用者の減少に伴う路線バスの減便や路線廃止が懸念される橘地域において、地域、バス事業者及び行政の協働により、地域ニーズを踏まえた路線バスの再編による運行効率化や、地域のイベントでの利用啓発実施などの実証運行に取り組み、効果を検証するとともに、その結果を市域全体の持続可能な公共交通ネットワークの構築に活用するものです。

2 実証運行に係る取組フロー

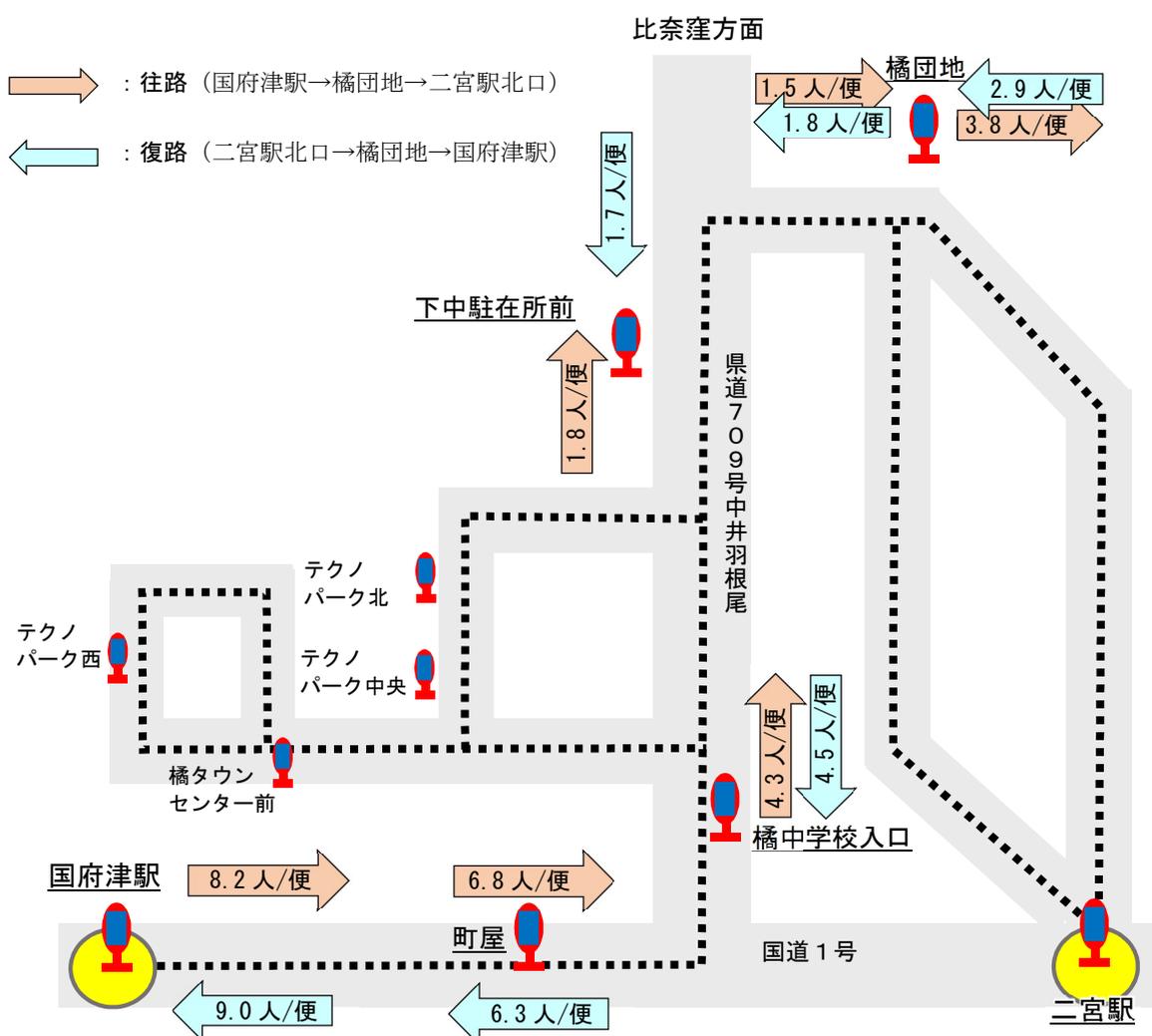


※ 実証運行に係る費用（赤字額）の 1/2 を上限に、市からバス事業者へ補助。

(2) 区間別の利用状況

- ① 国道1号区間（国府津駅バス停～町屋バス停）は、一定の利用があるものの、事業者単独で運行を維持していくのは難しい水準。
- ② 県道709号中井羽根尾～橘団地の区間については、橘団地に近くなるほど利用者が減少。
- ③ 橘団地バス停利用者は、主に二宮駅方面のバスを利用。

主要バス停に到着する際の乗客人数（1便当り）



主要バス停における乗客数の比較

(人/便)

バス停名	国府津駅 (発・着)	町屋 (着)	橘中学校 入口(着)	下中駐在 所前(着)	橘団地	
					着	発
往路（二宮駅方面）	8.2	6.8	4.3	1.8	1.5	3.8
復路（国府津駅方面）	9.0	6.3	4.5	1.7	2.9	1.8

(平成29年9月16日～令和2年1月末の実績より算出)

※ 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、令和2年1月末までとした。

4 実証運行結果を受けて

実証運行の結果、1日バス1台当りの輸送人員は、2割程度増加しましたが、実証運行を継続してもバス事業者が自主運行の目安とする目標値の達成は今後も見込まれないことから、令和元年度末をもって実証運行事業を終了しました。

現在はバス事業者が単独で運行を続けていますが、バス事業者から、国府津駅方面の路線（国府津駅～橘団地の区間）については、減便・路線再編しても単独での運行継続は困難であるとの方針が示されたことから、減便・路線再編を行いつつ、市が国の補助制度に準じた補助（損益の1/2）を行うことで、当面路線バスの運行を継続したいと考えています。

なお、路線再編に伴うダイヤ改正については、今年度中の実施を予定しています。

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、変更する可能性があります。

	実証運行前	実績	目標値	実績/目標値
1日バス1台当りの輸送人員	171人/台	210人/台	400人/台	▲48%

1.23倍

(※ 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、令和2年1月末までの実績を基に算出。)

5. 再編後の運行見込み

